



聴員 甲村 議
ごみ処理施設へのKDV
低温触媒イオン交換型
ディーゼル燃料製造装置
の導入について

ごみ処理施設へのKDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置の導入について

質問

次期ごみ処理施設を検討する上での基本方針や、廃棄物完全リサイクルシステム(ゼロエミッション)への認識について

何う。

また、KDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置(生ごみ、プラスチックから軽油を造る装置)の特徴や、運転条件について、市の考えを伺う。



重員 渡辺 議
観光政策の基本的な方向性と
取組の手法について

観光政策の基本的な方向性と取組の手法について

質問

今年度は東日本大震災に始まり、長引く不況、高速道のETC休日終日割引(千円を上限とする割引)の廃止など

の影響もあり、観光を取り巻く環境が大変厳しい状況にあったが、行政としてどのような対策を行ってきたか。

各種団体や民間の交流人口拡大に結びつくイベント等において、行政支援が必要であったり、行政の役割と言える部分があったりするなど、

市長答弁

次期ごみ処理施設については、ごみ処理施設あり方検討委員会を設置し、「生活環境の保全に配慮したものであること」「循環型社会形成及び地球温暖化防止に資すること」などを基本として、整備方針を検討していく。

廃棄物完全リサイクルシステムについて、発生する廃棄物をゼロにすることを目的とするゼロエミッションは、環境問題を考える上で重要な取り組みであると考えており、資源化できるものは資源化すること

民間と行政の協働の取り組みが期待されるが、市の考えはどうか。

この厳しい環境を経験する中で、当市の観光全体の方向性や各機関・業者・市民の役割を整理した観光ビジョン等が必要と思うが市の考えはどうか。

また、とかく観光客数がバロメーターのようになっていくが、実際は観光客の行動分析と経済波及効果が大変重要である。これらの算出を随時行い、関係業者、団体との情報共有は図られているか。

を基本に、リサイクルを進めていきたいと考えている。

また、KDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置は、ドイツで発明された環境負荷の少ない新しいエネルギーシステムで、二酸化炭素の削減などに効果があると認識しているが、現在、このプラントの国内での稼働実態がないことから、当市での導入は考えていない。

市長答弁

今年度は、被災地や被災住民に対して配慮しつつも、当市の安全性を情報発信し、各種イベントを開催してきた。このほか、新規体験ツアーや修学旅行の受入相談などにも対応してきたところである。

各種団体や市民の自主的活動に対して市も連携、支援してきたが、今後も、市民が主体となつて活動することを基本に、側面支援を継続していきたい。
観光ビジョン等については、

観光協会の3支部の事業や役割について協議している段階でもあり、今のところ作成は考えていない。

観光客の行動分析と経済波及効果については、定期観光バスやモニターツアーでのアンケート調査により観光客の行動分析を実施しており、その情報は関係機関、施設などへ提供している。



現在の清掃センター

